

環境調和材料研究会開催報告

主催：名古屋工業大学 先進セラミックス研究センター
共催：名古屋工業大学研究協力会、産学官金連携機構

日時：2018年1月25日（金）15:00～17:15
場所：名古屋工業大学 3号館 0323 講義室

概要：

セラミックスを主成分とする様々な機能性材料の中で、表面特性を積極的に活用する固体触媒はエネルギー・化学原料製造や環境浄化に欠かすことのできない重要な材料として活発に研究されています。特異な機能を有することが知られている希土類酸化物や安価なニッケル触媒での水素製造について高い知見をお持ちの鳥取大学 増井敏行教授と豊橋技術科学大学 水嶋生智教授をお招きして、エネルギー・環境問題に貢献できる触媒材料の研究動向と今後の展望について講演をして頂きました。本研究会は、名古屋工業大学が産業技術総合研究所との連携・協力協定に基づく活動として実施中の共同調査研究（テーマ名「パウダーテクノロジーによる天然ガスの基幹化学製品への直接変換プロセスの進展」）の一環として開催しました。

プログラム：

「希土類酸化物を用いた環境触媒」

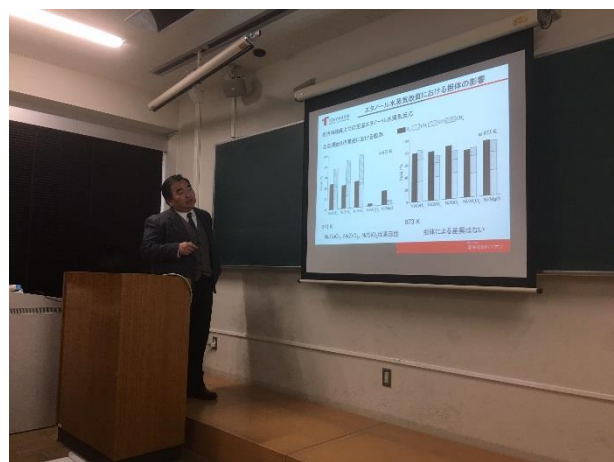
鳥取大学 大学院 工学研究科 化学・生物応用工学専攻 教授 増井 敏行氏

「担持 Ni 系触媒上でのエタノール水蒸気改質反応」

豊橋技術科学大学 大学院 工学研究科 環境・生命工学系 教授 水嶋 生智氏



(増井教授による講演風景)



(水嶋教授による講演風景)